

いわき民報

発行所 行民きわい
社報民きわい
(第一八三四號) 社一町四市平
己克額千一人前前第
除心日曜月但刊日
張五十部一四 月一價定

讓る

製造一式
棒炭 機械
開盛館
平市田町五電五七〇

畜産技術員會

那農業會では二十九日農畜業會
で郡下町村畜産技術員打合會を
開く

**各用水路への
ゴミ捨て厳禁**

平市では灌漑用水路として大切
な愛谷江筋や新川に塵芥を投入
するものが最近めつきり増加、
流水を阻害すること夥しいもの
があるため、二十五日の市常會
を通じて市民の公徳心に訴へると
共に今後江筋の要所へ立札
を立て注意を喚起することと
なつた、向これでもかぬときは
断乎取締當局の應援を求めて
敵討方針を進むこととしてゐる

貯蓄組合も壊滅状態

地域組合は殆んど解散の姿

へる、こんな状態で市民の
貯金帳もどの位保つか近い中
に底を叩くとしてもふのではな
いかとみられる、心配なこと
である

**小名濱の
配給委員**

小名濱町で
は物資の配
給の適正化を期するため市吏員
のみでなく一般町民中からも配
給委員を任命することとなり、
この際左の如く依頼すると共に
二十六日第一回委員會を開いて
軍拂下げの長靴七千足の配給を
行つた

言寸きわい

貯蓄組合は壊滅状態
一方郵便貯金も赤字の
連続、大衆の財布の底
もみえて来たところ、
心細いこと極まりない、
夏といへば、その身に
染むものがある

食糧對策委員會へ横槍

生産委員の顔觸に不満から
日農参加拒否の聲明を發す

石城郡の食糧危機突破に對して、他は殆んど天下りの農事實
委員會への参加を拒否したが、
食糧對策委員會及びこれが進行組合長代表で、斯くては眞實
各支部に於いては、これとは別
營の圓滑を期するための消費及生産者の意志を反映し得ぬ、地
に各町村對策委員會に對しては
生産專門委員會の顔觸は方事務所の態度はさきの日農
夫々委囑發表されたが、右に對農の要求を承諾しなからば、
日本農民組合石城協議會ではにかけたものとし、解し得ないやう、
日本農組の要求を容れたとの形といふものである

女學生斃死

植田町々後小野野の三女植田
高女二年生小野野ひで子(一五)は
二十六日同町大正炭礦の軌道が
飛び下り大股部を斷斷され手
當を加へたが同夜八時半、遂に死
亡した

郵貯相變らず赤字

中旬の黒字は定額募集で
五月中の赤字六十四萬圓

六四(増)一〇六、八五〇圓
十六日(一)二〇日(預)四三八
〇九六(拂)四一五、四六
三(増)二二、六三三圓

社告

本紙は日刊(夕刊)に改めて以來二月各
方面の絶大な御支援に依り漸く基礎を作
り得ました、國內の用紙事情急迫を告げ、平版印刷
機に依る新聞用紙は全然配給停止の旨、商工省紙維局長よ
り正式通告に接し、いばらの道を踏み忍んで来た本紙も遂
に万事窮し、一般市價に依る現在の用紙事情に於ては廢刊
の運命に至りました、然し苦しみ抜いて誕生した唯一の郷
土紙を再び閉へるに忍びず、七月一日より定額一ヶ
月五圓に引上げ、本紙の経済的負擔を最少限度に止め、繼
續發行することに決意しました、地方文化に貢献せんとす
る吾等の微衷を諒とせられ、御購讀の上御支援賜らん
ことを切にお希ひ申上げます

**預金帳の底も
見えて来た**

案せらるる、懐中
赤字の窓口に平局では語る
同の切換も物價面か生産面か
下ららず、主食類は危機を反
映し尻上りの暴騰振りを示す
今日黒字は到底望みない、殊
に局は大商人その他の相手よ
り大衆が多いので無理はない
現在の物價では五百圓位では
生活は出来ぬ、質を質に置い
ても食はねばならぬ今日預金
出来る方が妙な位のものとい

いかにみられる、心配なこと

である

大道異變

平中 寄二

貴族院の本會議で、水野氏は
「男子は全部政治から退却し
て婦人に譲れ」と叫んでゐると
聞く。
水野の姓と、水の泡式の議論
と、何か前世の因縁でもありさ
うだ。

**町村委員會は
既定の方針で**

日農支部へ通告

石城地方事務所に於ける食糧
對策委員會並に同專門委員會
はその人選が余りに天下りの
で我が日農執行委員會の自主
的に選んだ代表の加入を無視
したるものである、かゝる構
成員では働く農民の意見は反
映されない、我々はこの農民
の意志を無視した官僚的な委
員會への参加を拒否し、日本
農組の立場から別個に食糧危
機突破のための具体的な運動
を實踐するものである

勞組小委員會

縣地方勞組主催通し勞組小委
員會は二十九日午前十時から平
動勞署に開く

缺配は斷じてせぬ

馬鈴薯は一貫匁で七八〇瓦差引
カジメも三千貫中村から入荷済

人當り一貫匁の配給で、さてこ
の一貫匁で米をいくら差引くの
か、又幾日分かつたらぬとこ
ろさへあり、大きな不安にから
ぬ配給、麥のみの配給されてゐる、この状態はいつまで
或は薯のみの配給で米
が一粒も配給をみぬ場
食糧平出張所に據くと、米の入
荷が間に合はぬので二十三日米

營團に聽く

加ふる。女性を奴隷の如く取
扱ふ男性も人間の屑だが、男子
を廢物の如く考へる男子に至つ
ては、紙屑箱にでも入つて貰ふ
以外には往々天地はあまるまい
今に妻が主人をアゴで使つた
に可なり、子供を産み育てる、
あの大慈大愛を擧げて、殺風景
性の眞似を初めたり、或は種馬
な、泥仕合の驕場の滑稽に當て
たる、日本もさぞかし、住みよ
きる男も出来るかも知れぬ。

**設開所張出
せら知御**

七月一日から左記に福島縣出張所を開設致します
日本ハツタ藥品工業株式會社
平市揚土十七 電話八二五番

けふの頃の物價は？

六月の物價指數 商工經濟會の調査

喰ふ爲に、生きる爲に、乏しい財布の底をばたいて五百圓生活を切り抜けて来た大衆の生活も愈々底が見えて来た様だ、お金の續く迄は何とかやつて来たが最早出資金もなければ物もない、事業資金の凍結に依つて慌てふためいてある事業家を尻目に大衆はそれどころか折角の野菜の氾濫や魚の相場の下落にも拘はらず、青息吐息の状態だ、昔は俸給生活者に安住の地とされ、海の幸、山の幸の寶庫として自他共に許された石城の天地も最近の世情は余りにも激しい變り方ではある、歌の文句ではないが「何處まで續くこの生活を」と考へ乍ら平市商工經濟會に六月の物價指數を探つて見た

總体的には下落

主食類は依然尻上りの一途

- 東京の物價は此處數日來急激な下落を示し、食糧品類は平よりさがつて居る位で、平に九で反對ですと云ふ係員の言葉を聽き乍ら六月の物價指數を先づ主食に覗くと成程又尻上りで六十圓を示してゐる、四月は五十圓、五月は五十五圓、之では東京と比較されても仕方あるまい、總体的には下落してゐるが主食類は依然然る尻上りを示してゐる(上は最高下は最低價格)
- (主食品類)**
白米一升六〇圓一五〇圓、糯米六五圓一五五圓、大麥五〇圓一四〇圓、小麥五〇圓一三〇圓、大豆四〇圓一三〇圓、小豆五〇圓一四〇圓、小麦粉一貫目一五〇圓一四〇圓、乾うどん一貫一五〇圓一四〇圓
- (蔬菜類)**
馬鈴薯一貫四三圓一二三圓、大根四、五圓、胡瓜五〇圓、莢豌豆二〇圓一五圓、莢豆元五〇圓一三〇圓、玉葱三五圓一二〇圓、白菜三四圓、きやべつ八圓一四圓
- (肉類)** 單位百匁
牛肉二〇圓、豚肉二〇圓、馬肉二〇圓、鶏肉八五圓、鶏卵二六圓一〇圓、牛乳一升二五圓一〇圓
- (魚介類)** 單位一貫匁
あんこ二二圓一八圓、あかじ二五圓一五圓、はも三六圓一三〇圓、かつを一五〇圓一八五圓、みがき三〇圓一八〇圓、川女子一五〇圓一二〇圓
- (漬物類)** 單位一貫匁
澤庵漬四〇圓一三〇圓、奈良漬五〇圓一四〇圓、福神漬九〇圓一七五圓、乾海苔一帖八圓一四圓
- (調味料)**
味噌九〇圓一七五圓、醤油六〇圓一四〇圓、食鹽五〇圓一三五圓、食鹽一貫九〇圓一三五圓、動物性食用油二〇圓一八〇圓、植物性食用油一三〇圓一八五圓
- (嗜好品類)**
清酒二〇圓一八〇圓、燒酎一三〇圓一〇〇圓、ビール一六〇圓一四四圓、金鶏八圓
- (燃料類)**
木炭一俵四〇圓一三五圓、薪六圓、タンドン一七圓、石炭七〇圓
- (身廻品類)**
手袋二圓一〇圓、短靴四圓一〇圓一五〇圓、軍靴一〇圓一〇〇圓、地下足袋一七〇圓一〇〇圓、ゴム長靴七〇圓一〇〇圓、蛇ノ目二五〇圓一〇〇圓、蛇ノ目一三〇圓一〇〇圓、化粧石一三〇圓一八圓、洗濯石一圓一四圓
- (住居關係類)**
貸家三間九〇圓、貸間六圓一〇圓、下宿料三圓一五圓、下宿料三圓一五圓、食付六圓三〇圓一〇〇圓、米三升から五升持込、疊一疊一五〇圓一三〇圓、疊表一

開

志賀町長素描

新小名瀆町長志賀要平氏に對し果して町政を背負立つ貫録があるのかとを能くきかれるが、自分は常にその素質に貫録に不足はないと太鼓判を捺者であるといへばすべてが承知は唯經驗のない事が物不足であらうが元來の精勵勤勉の質は就

治十二年頃小名瀆が米野中島併せ呑む處、茫洋に見せて精細轉車で通動して居る處など町長を務めて居る。祖父義門長を務めて居る。父義次兩氏は何れも町議たり助を有する点殊に讀書趣味を有し置きたい事は市町村長も愈々公役たり唯四十歳前後で登られたの町長とはならず終つたが器用、不足のない資財を擁して本年十二月が破路に立つ時だ、此機會に公選なればと狙ふ不所存者もボツ、見へて来た、十二月迄の短期間ではあるが新町長志賀要平君は町長たる貫録の試驗臺に乗つて居る譯であるから吾々は悠々パスする事を祈つ筆を擱く。(小野務平)

雜品類

- 便箋二五圓、封筒一〇枚一圓、鉛筆〇、五圓、萬年筆三〇圓一〇圓、手筆五圓、墨九圓一六圓、電球三〇ワット二五圓一五圓、ロソク〇の状態で長い事沈黙が續いた。洗面器六〇圓一五〇圓、バケリを包んでゐた。とたんに彼女ツハ五圓一六〇圓、ニュームは幾分腹たたい口調で、否う鍋四五圓、鉄八〇圓一六五圓、鉢三〇圓一三五圓
- 「貴方はホントにニューズキカ兵ね」

還兵

劉羽寧はこう見へても第一線にた。まるで野良犬の様に彼女を勇戦敢闘の勇者で有る。何探がしまわつた。そして數ヶ月處で彼はハルマヘラ島で有つた或る日のたそがれ時バツ足袋、手拭二〇圓、靴下二〇圓、この程内地へ然かもなつた。せつちやん、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百

獨り想ふ

人生はあまり感傷的ではない詩的でもないけな。若き日のロマンスも清く美しい想ひも、なにもかもこんなにならしたら私達の「々々」の人生は生活は一体どんなになるのだ路傍の石か、化石か、他律的行動の牛馬に等しいあ、怖い、冷めたどろろが私をまつてゐる

然かも私の悲しみは岩よりも重く喜びは、あさみの毛よりも輕いであらうに私の悲しみは私の罪を洗ふであらうか？これでも天は公平であらうか

野の果ての思ひ 千 吉

赫土のほそい睦路がつづき 春の野の原の果てで わたしをよんでゐるひとが

四季

赤井村國泰鐵工株式會社、水吟社より選評を請はれて

渡邊何鳴選

友ほしき雨の日は妻とある 開市を賞ふ人橋に日の水く 山吹の里どこからも油のみち 山如に茶道具並ぶ日水かな 春雨やいつしか濡れて庭の石 山菜の汁ばかりなる温泉宿かな 針筒に忘れし母の風邪薬 双峰にじばしとまり春の雲 南橋の危ふくか、思ひ 早炭に焼野の土の匂

古川興業有限會社
平市南町四十一番地
御希望の向には御一報次第係員 參上致します

皆様のカメラの店
一般油脂類
陶磁器業用品
電氣瓦斯器具
農機具自動車類

田中寫眞場
近代人の寫場
小名瀆役場前

安いから安いの
安いから賣れる
それは御存じでせう
安く仕入れて安く賣る
新興雜貨 家庭日用品 金網金物 製品 教育玩具 美術人形 小間物 文具 あらゆる百貨品 平市六丁目大通り 安値自信 信用 安御

茂木カメラ店
平市三丁目